

日本の中の

「異文化コミュニケーション」

東京女子大学 2011年度 夏季特別講座

世界の中で見ると、日本はいわゆる「多民族国家」ではありません。

しかし、日本の中にもさまざまな「文化」を背景とする人々がいます。

近年、多くの外国人が生活者として日本で暮らしています。

また、日本人どうしても「文化の違い」を感じることは往々にしてあります。

この講座では、ことばや対人行動を軸に、普段の生活の中で私たちが経験している「異文化」を見つめ直し、社会とことばの関わりや、コミュニケーションのあり方について考えていきます。

A 8/30 (火) 10:00~12:00

日本語社会の「異文化」を考える

「異文化コミュニケーション」という国や言語の異なる相手を思い浮かべがちですが、日本人どうしても性別、年齢、出身地域などによる言語使用や行動の違いがあります。「異文化」の諸相について、各種調査結果などをもとに考えてみます。

熊谷 智子 | 本学教授

B 8/30 (火) 13:00~15:00

「方言コスプレ」にみる地域間温度差

「ヴァーチャル方言」を用いて臨時的キャラクターを発動する「方言コスプレ」。この現象には地域差が観察されます。どのような地域差で、その地域差は何を意味するのでしょうか。これらについて、調査データから検討していきます。

田中 ゆかり | 日本大学教授

C 8/31 (水) 10:00~12:00

あなたにとって「許せない日本語」とは?

— 「外国人の日本語」に対する評価の観点を問い直す —

この講座では、「外国人が日本語で書いた手紙文」を実際に読んでもらうことによって、みなさん自身が知らず知らずのうちに身につけている「評価のくせ」を、改めて自覚し、問い直しができるような活動を行います。

宇佐美 洋 | 国立国語研究所准教授

D 8/31 (水) 13:00~15:00

子どもの異文化コミュニケーションと教育

日本社会の多文化化は確実に進んでいます。次世代を担う子どもたちが育つ学校の中で、異文化接触はどのように意識され、どう扱われているのでしょうか。学校を中心に、異文化と接触しながら育つ子どもたちの教育の諸問題について考えていきます。

石井 恵理子 | 本学教授

会場 | 24202教室 (A~D共通)

後援 | 杉並区教育委員会・武蔵野市教育委員会・三鷹市教育委員会

Tokyo Woman's Christian University

 東京女子大学

問い合わせ先 東京女子大学 教育研究支援課

TEL: 03-5382-6470 (直通) 月~金 / 9:00~17:00 (11:25~12:25を除く)

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 URL <http://www.twcu.ac.jp>

FAX 03-5382-6479

夏季特別講座 日本の中の「異文化コミュニケーション」

ファックス参加申込書

フリガナ 氏名	受講テーマ(該当に○をつけてください)
〒 住所	8/30(火) → A B 8/31(水) → C D
電話番号	受講コマ数 ()コマ 受講料 ()円 1コマ1,000円(学生500円) 当日はつり銭の要らぬよう現金をご用意ください

対象 一般(社会人・卒業生・教職員・学生)

受講料 A~D 1コマ 1,000円
(学生500円 ※武蔵野自由大学学生の方も含む[当日学生証を持参])

①~④のいずれか1つの方法でお申込みください。
受講料は、当日会場で現金にてお支払いください。

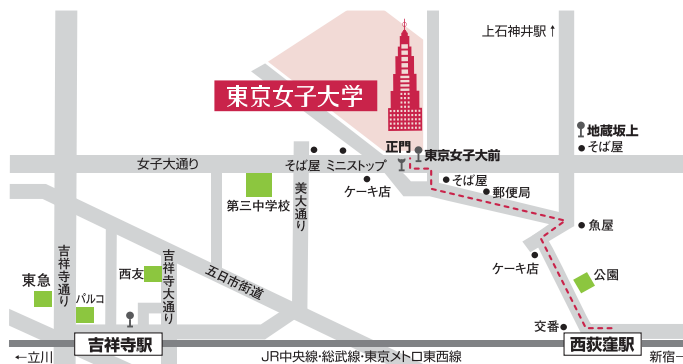
締め切り 8月10日(水) 必着

申込方法

- ①ファックス** 申込用紙に記入し、**03-5382-6479**に送信する。
- ②Eメール** 〒住所・氏名(フリガナ)・受講テーマ(A~D)を書いて **support@office.twcu.ac.jp** に送信する。
- ③電話** **03-5382-6470**(教育研究支援課)に申し込む。
- ④ハガキ** 〒住所・氏名(フリガナ)・受講テーマ(A~D)を書いて **〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 教育研究支援課** に申し込む。

【交通案内】

- 西荻窪駅(JR中央線・総武線、東京メトロ東西線乗り入れ)北口より徒歩12分
北口(1番のりば)より吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車
- 吉祥寺駅(JR中央線・総武線、京王井の頭線)北口(3番のりば)より
西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車
- 上石神井駅(西武新宿線)南口より西荻窪駅行バスで「地蔵坂上」下車、
徒歩5分



講師プロフィール

A 熊谷 智子

国立国語研究所を経て、現在、東京女子大学現代教養学部教授。専門分野は社会言語学、談話分析。言語行動や談話におけることばのやりとりやダイナミクスを研究している。主な著書に、『Hidden and Open Conflict in Japanese Conversational Interaction』(共著、くろしお出版 2004年)、『三者面接調査におけるコミュニケーション—相互行為と参加の枠組み—』(共著、くろしお出版 2010年)がある。

B 田中 ゆかり

日本大学文理学部国文学科教授。専門は日本語学。現代の日本語と日本語社会の変化に関心があり、言語から社会の変化を記述したい、と思っている。首都圏が主なフィールドで、実際使用されることばとしてのリアル方言から、今回話題にするヴァーチャル方言の問題、そして言語サインまでと、関心はさまざまである。主な著書に、『首都圏における言語動態の研究』(笠間書院、2010年)がある。

C 宇佐美 洋

国立国語研究所准教授。かつての専門は言語学だったが、現在は、社会の中で現実に使われたことばや、ことばに伴う行動が、周囲の人間にどのように受けとられるか(評価されるか)について、またその評価のあり方がいかに多様であるかについて、研究を進めている。主な論文は、「文章の評価観点に基づく評価者グルーピングの試み—学習者が書いた日本語手紙文を対象として—」(『日本語教育』147号)など。

D 石井 恵理子

東京女子大学現代教養学部教授。専門は、日本語教育。日本語教育の多様な事例から、ことばの教育・学習が個人個人のあり方、社会のあり方どのように関わっているか、特に教師等日本語教育に携わる者の社会的役割について考えている。主な著書に、『「多文化共生」は可能か—教育における挑戦—』(共著、勁草書房 2011年)がある。